

生徒の皆さんへ

宮城県宮城第一高等学校  
校長 後藤 和也

## 令和4年度 学校評価について (報告)

11月に実施しました学校評価アンケート調査について、多くの貴重な意見をいただきました。ありがとうございます。評価の結果がまとまりましたので報告いたします。

◇回収率 対象 全校生徒

回収率：1年次 264人(94%)，2年次 233人(84.4%)，3年次 249人(91.2%)

◇評価段階

A：当てはまる

B：どちらかといえばあてはまる

C：どちらかといえばあてはまらない

D：当てはまらない

肯定的評価（A+B）が90%以上：◎，60%以上：○，50%以上△，50%未満▲

## ◇評価領域ごとの結果と分析(数値の単位は%)

## 1. 教育活動全般に関する評価領域

No	評価項目	A		B		C		D		A+B	評価
		男	女	男	女	男	女	男	女		
1	学校行事は楽しく有意義に行えるよう配慮されている。	38	45	44	47	12	7	6	1	89.7	○
2	学校生活は充実している。	43	49	41	41	10	8	6	1	89.4	○
3	校舎やグラウンドなどの施設・設備は整備されている。	23	20	40	45	23	29	14	7	64.3	○
4	災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。	51	49	39	42	6	8	4	1	90.6	◎
5	学習活動、学校行事、部活動では特色ある学校づくりに取り組んでいる。	47	61	43	34	6	5	5	1	93.7	◎
6	学校ホームページや Classi などによって、学校の情報は適切に伝えられている。	30	43	54	46	12	9	4	1	88.6	○

項目1「学校行事」と項目2「学校生活」に関しては、肯定的な評価が約90%と高評価となっています。特に、項目1の学校行事については、昨年度より1%ほど評価が上がりました。今年度もコロナ禍が続いていますが、生徒の皆さんと先生方で協力し工夫して、さまざまな学校行事を実施できたことに対する評価だと思えます。これは困難な状況下にあっても前向きに考え、目標達成に向けて立ち向かう宮一生の姿勢の表れと考えます。また、学校生活が充実している、と感じている皆さんが多かったことに、自ら考え行動できる宮一生のモチベーションの高さを感じられます。今後も、この意識の高さが継続されることを大いに期待しています。

項目3「施設・設備」については、昨年度73%→今年度64%と評価が下がりました。仮設校舎のため、騒音やその他の設備の面で不便をおかけしている事も多々あると思えます。皆さんからの要望に対して、予算その他の点ですぐには解決できないこともあります。可能な範囲で今後も対応をしていきます。仮設校舎での

学校生活も1年足らずの予定です。「仮設」であっても「我が校舎」という気持ちを忘れず、大切に使うて欲しいと思います。

項目4の「災害時の対応」については、昨年度に引き続き、高評価の回答が約91%でした。年2回の避難訓練においては、避難経路や非常時の連絡方法を皆さんと再確認しました。また、防災委員の皆さんも活躍してくれました。これからも、適切な情報発信を心がけ、防災意識の向上に努めていきたいと考えています。「災害」とは、地震・台風・洪水・津波・火山の噴火などの自然災害はもちろんですが、人間の活動によるもの（産業災害・感染症・公害など）も含まれます。皆さんも、社会の一員として、高い防災意識を持って生活して欲しいと思います。

項目5「特色のある教育活動」は4年連続で評価(A+B)が90%を超えており、本校の特色ある教育活動を御理解いただけていると考えます。コロナ禍で様々な制限がある中ではありますが、今後も魅力ある教育活動の工夫を重ねていきます。

項目6「学校の情報」は、評価(A+B)が約90%と高水準であり、学校からの情報が各生徒へ適切に伝えられていると考えます。これからも連絡事項などを様々なコンテンツ、ツールを活用して発信に努めます。

## 2. 学習活動に関する評価領域

No	評価項目	A		B		C		D		A+B	評価
		男	女	男	女	男	女	男	女		
7	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	19	20	44	56	25	19	12	5	73.3	○
8	生徒一人一人の個性を伸ばす教育課程(カリキュラム)が編成されている。	18	17	42	50	23	28	18	5	66.0	○
9	2年次、3年次での科目選択について十分な説明が行われている。	36	44	41	42	18	12	5	2	83.6	○
10	教科の年間指導計画や評価の仕方について説明されている。	37	41	46	46	14	11	3	2	86.3	○
11	学習について気軽に教員に質問できる雰囲気がある。	34	38	42	47	15	13	8	3	82.8	○

特に前年に比べて変化の大きかった項目は、項目7「学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている」の値でした。この項目については、昨年度より10.3ポイント下降しています。

ここ数年、本校における生徒の学び合いやグループ学習での発表など、各教科で探究的な学び・ICTの活用に取り組んできました。生徒の皆さんの学ぶ意欲を引き出し、学力が身に付くような充実した内容とするための、各教員の授業力向上に対する意識改革は進んでいるものと考えています。「探究」や「ICT」などの授業改革に向けては、教員研修でその手法を学んでいますが、皆さんに身に付けさせたい力、その授業の目標を生徒の皆さんに十分伝えることができないでいると思われます。生徒の皆さんが、自ら考え、自ら学んでいくという授業スタイルは、これまでの講義型のものとは異なりますが、必要に応じて講義型の授業も取り入れながら、皆さんが深い学びをできるよう学習のサポートをしていきます。

また、「それぞれの教科から課題を出されるため、総合的に課題が多すぎる」ため、「普段勉強したいができない内容を休日に回したいが、それもできない」など、自分に必要な家庭学習の時間が充分確保できないという意見も見られます。教科横断のみならず、教科間の連携をはかって、必要な時期に必要な課題が出されるような調整も必要であると考えます。内容・分量・回数を毎年精選吟味していますが、担当者間で連絡を取り合って過重負担にならないよう、さらに留意したいと思います。

さらに研修や授業公開などの体制の整備を進めるとともに、授業改善に取り組んでいきます。授業は教師と

生徒の両者の努力によって初めてその成果を期待できます。生徒の皆さんも授業内容や自身の学習法について疑問が生じた時は、気兼ねなく質問や相談に来てください。

### 3. 進路指導に関する評価領域

No	評価項目	A		B		C		D		A+B	評価
		男	女	男	女	男	女	男	女		
19	進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	36	38	42	48	16	13	7	2	83.8	○
20	大学、短大、専門各種学校など、上級学校についての情報提供が的確になされている。	31	38	45	47	16	14	8	2	83.0	○
21	自分の進路について相談に応じる体制ができています。	34	40	42	47	17	10	7	3	85.2	○
22	進学へ向けての模擬試験や課外講習が充実している	42	53	50	42	6	5	2	1	94.0	◎
23	進路ガイダンス・進路講話は適切に実施されている。	32	51	51	42	10	6	6	2	90.7	◎

進路指導部関係の評価項目は全般的に高評価と言えますが、昨年度より全てにおいてマイナスの評価となりました。特に「進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている」が-6.5%、「自分の進路について相談に応じる体制ができています」が-4.1%という評価になりました。これは、「もっと大学入試システムなど詳細に説明してほしい」という声があるなど、本校の進路指導が皆さんの要求に答えきれていないことを反映しているものと受け止めております。進路指導部では、「進路便り」やLHR等の時間を使い進路情報を提供の工夫、担任の先生を始めとした面談の強化などに努めていきたいと考えています。

### 4. 生徒指導に関する評価領域

No	評価項目	A		B		C		D		A+B	評価
		男	女	男	女	男	女	男	女		
12	学友会、各種委員会の活動が盛んで充実している。	23	27	48	47	20	23	10	4	73.0	○
13	部活動が活発に行われている。	51	57	42	38	5	5	2	0	94.6	◎
14	挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。	22	26	41	40	25	29	12	5	65.1	○
15	学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。	23	24	41	48	27	23	9	5	70.7	○

項目12「学友会、各種委員会の活動が盛んで充実している」と評価している人が昨年度より5.9%減少しました。昨年度同様行事は開催できたものの、コロナ禍で感染対策を徹底することで制限されることも多く、物足りなさを感じた生徒が多くいたことが感じ取れる結果でした。

項目13「部活動が活発に行われている」と評価している人が、昨年度同様に非常に高い数値を維持しています。運動部・文化部とともに、日頃の練習から大会への参加、活躍と、充実した部活動ができています。生徒が多数いる証だと感じられます。

項目 14「挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導」があまり徹底されていないという結果は、昨年度と同様になりました。高校生活は、中学校とは異なり、自分で判断して行動することが求められます。注意されないから挨拶やマナーをおろそかにしてよい、規則で決められているからやってはいけない、ではなく、自分で考えて行動するように心がけましょう。自分の日常の行動がこの学校の雰囲気や文化の一部なのだという意識を持って行動しましょう。関連して、昨年度も言及しましたが、私物の置き忘れが非常に多くなっています。ロッカー等を利用し、貴重品の管理にもう一度意識を向けてください。

項目 15「いじめの早期発見への取り組み」は約 30%の生徒の皆さんが「十分ではない」と考えています。今年度から学校生活アンケートの形式を一部変更し、これまで以上に学校生活の悩み等の早期発見に努めています。また、生徒の皆さんには、学校生活に限らず、普段から周囲の人に思いやりを持って接する人であってほしいと思います。人間関係に関する問題が発生したときは、自分の中に抱え込まずに、誰かに相談するようにしてください。問題が発生していなくても、何か不安に思われるような出来事や、判断に迷うような出来事があつたら、一人で悩まずに、まずは相談してみてください。担任だけでなく、自分の関わり合いのある先生で話しやすい先生がいればその先生でも大丈夫です。

## 5. 健康管理に関する評価領域

No	評価項目	A		B		C		D		A+B	評価
		男	女	男	女	男	女	男	女		
16	必要なときに、悩みや困りごとの相談に応じてくれるカウンセリング体制が整っている。	30	37	45	52	16	10	9	1	86.0	○
17	健康や体について困ったとき、相談に応じる体制が整っている。	34	39	45	49	16	10	5	2	86.6	○
18	校舎は衛生的に管理されている	37	43	51	47	8	8	4	2	89.5	○

項目 16「カウンセリング体制」については、前年度と比較すると、大きな変動はなく概ね良好と感じていますが、1年次が他年次よりも低いようです。カウンセリングの申込方法など、年度初めのアナウンスが不足したためではないかと考えています。次年度に向けて、集会などを利用して生徒へのアナウンスを充実させていきます。

項目 17「健康相談体制」については、A+Bの割合が 86.6%と高い水準ですが、前年度より 3.1%低くなりました。改善点として項目 16「カウンセリング体制」と同様に、特に1年次における年度初めのアナウンスと教職員のバックアップ体制を充実させていきたいと思ひます。

項目 18「校舎の衛生管理」については、年次別でばらつきはあるものの、前年度よりもA+Bの割合が 1.5%上昇しました。仮設校舎での清掃活動や感染症対策の取組が評価されていると判断しています。今後も生徒の皆さんとともに尚一層の環境美化に努めていきたいと思ひます。